

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292100039		
法人名	社会福祉法人 愛児福祉会		
事業所名	グループホーム三愛園		
所在地	青森県西津軽郡深浦町大字関字柝沢80-9		
自己評価作成日	令和4年9月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本人の持っている能力・願望・好みをニーズとして捉え、個々の生活ニーズを基にしたケアプランの作成を行い、快適な生活ができるように援助する。
 援助するスタッフもスキルアップ(専門性を高めること)を目指している。
 内部においても福祉理念について学ぶ研修を行うことにより、利用者の最新の情報も共有して介護する取り組みを実践する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は子供から高齢者までの事業を展開しており、「愛望愛敬」の理念のもと、地域密着型サービスとしての役割を担っている。
 利用者が地域の中で生きがいを保ちながら暮らせるように、地域との交流や本人の思い、家族の思いを大切に、利用者が思い思いの生活ができるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛望愛敬」が法人の基本理念である。赤ちゃんからお年寄りまで、心と心のふれあいを大切に運営をしている。	法人の基本理念があり、職員会議等で確認し、共有化して理解を深めている。職員は理念を念頭に置き、日々のサービス提供を心にかけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者や地域の方々に理念を浸透させるために、毎月、経営者と職員で打合せ(職員会議)を実施している。理念を意識し、良い接遇ができるように、周知を図っている。	コロナ禍で自粛しているが、以前は地域の方の大正琴の演奏や踊りの訪問があり、日常的に交流していた。また、町の文化祭に利用者の作品を出展する等、できる限り地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場や町内グループホーム連絡会議において、認知症のケアについて、個々の事業所だけでなく、地域全体で見守る姿勢を大切にしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場福祉課の職員または地域包括支援センターの職員のどちらかが必ず出席しており、老人クラブ会長や民生児童委員、利用者代表がメンバーとなっている。会議では評価についても説明を行い、理解をしていただいている。	運営推進会議はコロナ禍の感染状況をみながら場合によっては書面でも開催している。また、メンバーから出された意見等は、今後のサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回、町の職員が参加している他、担当者が実地指導を含めて、度々訪問して下さっている。また、メール等を利用して事務連絡を行っている。	運営推進会議には町担当課や地域包括支援センター職員が参加している。日頃から行政とは連絡を密に取り合っており、利用者やホームの課題解決に向けて、協力体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本姿勢として、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。実際に今まで行ったことはないが、念のために同意書を用意している。	身体拘束に関する指針やマニュアルを作成している。職員は身体拘束の内容や弊害について理解し、身体拘束は行わない姿勢で日々のサービス提供を行っている。また、やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、同意書や経過記録等の様式を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法は重要と考えており、外部・内部研修を実施し、未然に防ぐように取り組んでいる。虐待を見過ごすことのないように、地域ぐるみの運動をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護や成年後見制度について研修を受けている。これらの学びは非常に難解であり、職員の中には拒否反応が出る場面もある。ただ、人生の先輩として、尊敬する心を持って接することが大切である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者を紹介された時は訪問し、本人と家族が不安を抱かれることのないように、十分に説明し、見学に来ていただくように勧めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書や広報に、外部の相談先を明示している。家族が面会や事務用務で見た時に、ご意見を出していただけるようお願いしている。	ホーム内外の相談・苦情受付窓口を重要事項説明書にも明記している他、ホーム内にも窓口を提示している。また、第三者委員会の設置もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で運営や行事予定、利用者の状況等について様々な意見や提案等があり、できる限り反映させるようにしている。	毎月の職員会議で、利用者の受け入れや業務改善に関する話し合いが行われている。日頃から、管理者と職員は何でも気軽に話しており、必要に応じて職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員にとってのスーパーバイザーであり、どんな事でも提案できるような信頼関係が構築されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望を聞きながら、年に1回は外部の研修を受講するように努力している。また、資格取得希望者には配慮をして、目標達成への応援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームと交流しており、地域ケア会議等を通して情報交換を行っている。また、日本グループホーム協会にも入会しており、青森県支部主催も含めて研修会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や担当ケアマネジャー等の情報を取り入れて、職員の意見を聞き、十分に情報を活かしたアセスメントを行い、信頼関係を重視した関係づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望を取り入れて、利用者と同じように信頼関係を重視した関係づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活については、本人や家族とよく相談した上で、医療や介護の支援をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は「介護を受ける人」ではなく、「主体的に生活する人」として、また、スタッフは「介護の提供者」ではなく、「生活のパートナー」として意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までは家族に沢山訪問していただけるように声掛けしてきたが、今は訪問ができない状態である。しかし、利用者支援のために、場面場面で電話等で家族に相談し、勧めるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理美容院等や医療機関へ行けるように配慮している。職員はいつも利用者の視点で家族と話し合い、調整している。一人ひとりが安心してサービスを利用できるように、事前に本人・家族に聞き取りをして、介護にあたっている。	入居時のアセスメントや日頃の会話等から、利用者の馴染みの人や場所を把握しており、職員間で情報を共有している。また、電話のやり取りを支援する等、関係が継続できるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「主体的に生活する人」同士がお互いをよく理解し合って、関わるようにしている。性格や価値観の違い等から、摩擦が起きることもあるが、職員は非審判的態度で傾聴～受容～共感して、支えるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院したり、施設入所した方がいるが、便り等を持って訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望をよく聞き、利用者のペースで支援することを心掛けている。入浴・外出・食事等の場面で、急がせることはしないようにしている。	利用者とのコミュニケーションを大切に考え、職員を担当制にして、日々の関わりの中で思いや意向を把握している。難しい場合は、家族や関係者からも情報収集し、全職員で情報を共有しながら、利用者本位の意向を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やアセスメント、日常の会話等から情報を得て、支援に役立てるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者は皆で食堂で寛いでいる。個室も環境が良く、外の景色がよく見えて居心地が良い。自由に思い思いの物を持ってきており、不自由さはない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の基となるアセスメントや職員のケース検討を行い、作成している。内容が具体的なものなので職員、家族等の連携を取って、その時に合った介護計画を作成している。	毎日の申し送りや毎月の職員会議で、利用者の状態等について報告や話し合いが行われている。また、利用者や家族の意向を確認し、職員の意見や気づきも反映させて、利用者一人ひとりの現状に即した、個別具体的な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った視点で記録しているが、計画にない事も起きるため、職員間で連携しながら実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて、通院の送迎・理美容院への外出支援等を柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はあまりできなかったが、地域を散歩したり、隣接のこども園やデイサービスと交流を行っている。プライバシーに配慮しつつ認知症を理解していただけるように、地域の方々へ啓発活動も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関を、継続して受診できるように支援している。受診後は家族に報告しており、情報の共有が図られている。多くの利用者の主治医だった診療所が休止しているため、難しい通院をせざるを得ない状況である。	入居時にこれまでの受療状況を確認し、希望する医療機関を受診できるように支援している。また、受診結果は家族に報告し、情報の共有化を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していないが、法人内の他の事業所の看護師に相談し、具体的な助言をしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の地域連携室等と連携し、入退院時の情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	地域の病院でも医師不足は深刻な問題であり、日頃の連携はできているが、ホームでのターミナルケアに向けた連携やマニュアル作成までには至っていない。しかし、管理者と利用者、家族とは話し合いが持たれている。	入居時に重度化や終末期の対応について説明し、ホームの方針を明確にしている。利用者の状態の変化や緊急時には、家族や医療機関、ホーム間で話し合い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の個別の状態に応じて備えている。緊急時は主治医と家族に連絡し、必要であれば救急車を要請することと話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時は町の指定する場所に避難し、夜間は一人なので、近隣に住む職員が駆けつけることとしている。また、11月に津波や火災を想定した総合訓練を実施した。	職員と利用者が一緒に避難訓練を行えるように、災害時対応マニュアルが作成され、年2回、避難訓練を実施している。今年度はコロナ禍のため地域住民参加による避難訓練は実施していないが、災害時における地域との協力体制を構築している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に気を配っており、特に言葉遣いについては、管理者から注意することもある。また、各室の表札については、利用者にとっては有効であるが、訪問した方や地域の人等に対しては、十分に配慮している。	利用者の言動を否定したり、拒否しないように努めている。職員会議で振り返り、改善に向けた話し合いを行い、利用者のプライバシーや羞恥心に十分に配慮するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いを把握し、職員間での情報共有を大切に、利用者本位で生活できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の訴えを最優先して接するように努めている。一人ひとりに合ったペースでの暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴や習慣、希望、利用者の趣味に合わせて、おしゃれや楽しみ事を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は会話しながら、良い雰囲気で行うように努力している。献立作りから調理まで、利用者の意見を聞きながら取り組んでいる。	職員は利用者の好みや禁忌を把握しており、食材の差し入れ等も考慮して臨機応変に対応し、食事を提供している。また、利用者の意思に応じて、下ごしらえや食器拭き等を職員と一緒に、食事の時間が楽しく過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に調理師がおり、利用者一人ひとりの栄養バランスに配慮し、それぞれに合った支援ができています。水分は1500CCを目安としている。摂取量に関して、必要がある方は個人ファイルに記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各個室に洗面所があり、毎食後、自分のできる利用者に声掛けをして、歯磨きや入れ歯清掃をしていただいている。困難な方は職員と一緒にやっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の自立は課題の一つである。利用者は排泄を失敗することもあるが、優しく、さりげなく、そして根気強く支援している。	利用者の排泄状況を記録し、パターンに応じてトイレ誘導を行っている。また、利用者の羞恥心やプライバシーに十分に配慮して、尿意の確認や失禁の対応をさりげなく行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬を服用している方もいるが、便秘気味の方には水分と食物繊維を多く含んだ食品を沢山摂っていただくように声掛けし、適度な運動をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週2回、1対1で介助して入浴していただいている。回数や入浴時間、介助方法について不満が出たことはなく、現在は入浴を拒否する利用者もいない。	利用者の入浴習慣や好みを把握して、週2回、入浴している。また、法人のデイサービスの機械浴を利用することも可能であり、安全に入浴できる体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分で管理できる方がいないため、職員がその都度、手渡しして服薬するように見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣、希望、利用者の能力に合わせて、何が楽しみな事になり得るかを把握しながら、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は困難であったが、散歩やドライブ等、積極的に外出の機会を作って、利用者には外出の喜びや楽しさを提供している。ホーム周辺を散策する活動を取り入れている。	コロナ禍のため、以前のような外出は自粛しているが、ホーム周辺を散歩したり、感染状況を見ながら、車から降りないで季節を感じられる場所にドライブする等、できる限り外に出る機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時等、一定の金額を所持していただき、自由に使ってもらっている。多くの利用者は職員にいろいろ聞きながら買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームから家族に電話する時は、プライバシーを尊重しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気大切にしている。窓からは診療所やこども園、小学校等が見え、人々の日常生活が感じられる。	温度や湿度は定期的にチェックし、管理している。また、ホーム内には、行事の写真を提示している他、季節感のある展示や飾り付けを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	木材がふんだんに使われており、家庭的な雰囲気である。周囲の風景は素晴らしく、山も見え、いつでも季節を感じながら生活している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた調度品等を持ち込むように働きかけており、居室にはテレビや衣装ケース等を置き、位牌や行事の写真、手作りの作品等を飾っている。	入居時に、愛用品や馴染みの物の持ち込みを働きかけている。居室には位牌や家族の写真等、思い入れがある物が持ち込まれ、安心して生活できる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自動火災報知設備やスプリンクラー設備があるが、いざという時は皆の協力が重要であるため、定期的な避難訓練も行っている。		